

## バルトークの“マイクロコスモス”の分析 —テキストについて—

小木曾敏子\*

はじめに

現在“マイクロコスモス”の楽譜で入手できるものはイギリスの出版社 BOOSEY & HAWKES 社刊行の6巻ものである。

バルトークはこの小品集について、易しいものから難しいものへと次第に難しくなっていくというくらいの大まかな曲の並び順を考え、3巻または4巻になるだろうとしていた。それが、出版の段階になって出版社の意図を反映して、教則本の性格を持たせることになった。

この曲集の初版本の表紙は次のように英語で書かれている。

153 PLOGRESSIVE PIANO PIECES  
IN six VOLUMES  
BOOSEY & HAWKES INC

初版本でみるように、結局最終的にこの曲集が153曲になったことで、1940年の最初の出版の時点から、テキストの量を各巻平均して6巻にすることを優先したと考えられる。

本稿ではこれに対してなされた9巻編成説<sup>1)</sup>について検証することを目的とする。9巻編成にするにあたってのバルトークの何かしらのサインが曲の配置に隠されていないかを数的にみていく。項目別に、同一曲番および同一巻内に同じ性格のものが複数の出現している曲を抽出し、配置から

くる9巻編成上の特徴をみる。9巻編成では各巻は17曲である。巻はローマ数字で記し、曲番は算用数字で記す。2曲連続の使用の場合は一で、3曲以上の連続使用は～であらわす。音名は英字の小文字で記すが、調性に関する項では英字の大文字は長調を、小文字は短調を示す。

### I. 検証資料

1. 調性：長短調、教会旋法およびその他の音階（音列）を対象とする。各巻（VIIIとIXを除く）の1と17の調性は、1が長短調の場合は17も長短調であり、1が教会旋法の場合は17も教会旋法になっている。

同一曲番では、ハ長調は1のI, III, VI, VIIIの9巻中4巻にみられ、2ではI-II, IVに、4のI, VIII, 10のII, VII, 13のI, IX, 15のIII, IX, 16のI, VIIにみられる。ホ長調は12のII, IX, 17のVII, IXに、ホ短調は11のII, Vにみられる。イ短調は4のII, IXにある。リディア旋法が7のII-III, V, 8のIV-V, 16のII-IIIにみられる。ドリア旋法は2のV-VI, 5のII, V, 9のII-III, V, 14のI-II, IVにみられる。フリギア旋法が12のII-III, IXに、エオリア旋法が8のIII, VIIIに、16のII, IV, VIに、ミクソリディア旋法は11のI, VI, 15のV, VIIにみられる。

巻別にはIにはハ長調が1-2, 4, 9, 13, 16-17に、ドリア旋法が3, 8, 12, 14にある。IIにはドリア旋法が1, 5-6, 9, 14-15に、

\*〒380 長野市三輪8-49-7 長野県短期大学

リディア旋法が7, 16に, フリギア旋法が11-12, 17に, ハ長調が2, 10にある。IIIにはリディア旋法が3, 7, 13, 16に, エオリア旋法が2, 8に, ミクソリディア旋法が6, 14に, ハ長調が1, 15にある。IVにはリディア旋法が4, 8-10にある。Vにはミクソドリア旋法が1, 15-17に, ドリア旋法が2, 5, 9にある。VIにはミクソリディア旋法が4, 8, 11に, エオリア旋法が15-16にある。VIIにはハ長調が10, 16に, VIIIには同じくハ長調が1, 4にある。IXにはハ長調が13, 15に, ホ長調が12, 17にある。

7音音階以外の音階(音列)が同一曲番に複数みられるのは, 3のIV, VII-VIII, 10のIV-V, VII, 7のIV, VI, 13のIV, VIIIである。巻別には, IVの3-4, 10, VIの1, 6-7, VIIの3, 5, 10, VIIIの3, 13, 17, IXの8-9にみられる。

調性がC-aと並んだ配置は, 4のI-II, VIII-IXにみられるが, 4のII a) -II b) もC-aである。巻別には, VII, IXの10-11がC-aの配置になっている。C-C-ドリア旋法という並びはIの1-3, 16-IIの1にみられる。G-Cの並び方はIVの1-2, VIIIの3-4にみられる。C-リディア旋法という並びはIIIの15-16, Vの6-7, VIIIの1-2にみられる。

2. 拍子: 一曲内で複数の拍子をもつ曲においては, 拍子すべてを数える。17と次の巻の1とが同じ拍子のものはないが, 同じ巻の1と17で同一拍子のものはIVとVにみられる。同一曲番で同じ拍子のものは, 1では4/4拍子がI-IV, VI, VIII(9巻中6巻), 6/8拍子がV, VII, IXに, 5/8拍子, 7/8拍子がVII, IXに, 3/4拍子がVIII, IXにみられる。2には3/4拍子がIII, V-IX(6巻), 2/4拍子がVI-VII, IXに, 4/4拍子がI-II, VIIIにある。3には2/4拍子がIII, VI-IX(5巻), 4/4拍子がI-II, VIIにある。4には2/4拍子がIV, VII-IX(4巻)に, 3/4拍子がII-IIIに, 2/2拍子がV-VIにある。5には4/4拍子がI-III, VIII(4巻)

に, 2/4拍子がV, IXに, 3/4拍子がIV, VIIにある。6には2/4拍子がIII, V, VIII-IX(4巻), 3/4拍子がVI-IX(4巻), 4/4拍子がI-II, VIにある。7には2/4拍子がV-VI, VIII-IX(4巻), 3/4拍子がII, V, VIIIに, 4/4拍子がI, VI-VII, 6/8拍子がIII-IV, VIIにみられる。8には4/4拍子がI, III, VIII-IX(4巻), 2/4拍子がII, VI-VIIにある。9には2/4拍子がV-VI, VIII-IX(4巻), 3/4拍子がV-VIII(4巻), 4/4拍子がI-III, IX(4巻)ある。10には2/4拍子がIII-V, VII-IX(6巻), 4/4拍子がII, VIに, 3/4拍子がI, VIIにある。11には2/4拍子がIII-IV, VIIIに, 4/4拍子がI-II, IXに, 3/4拍子がV-VIにある。12には4/4拍子がII-IV, VII(4巻), 2/4拍子がV, VIIIにある。13には2/2拍子がIII-IVに, 2/4拍子がV-VIにみられる。14には4/4拍子がI-II, VII-VIII(4巻), 3/4拍子がV-VI, VIIIに, 5/4拍子がIII(初出)-IVに, 2/4拍子がIV-Vにある。15には4/4拍子がI, IV-V, VII-VIII(5巻), 16には4/4拍子がI, IV-V, VIII(4巻)ある。17には3/4拍子がI(初出), VI-VIII(4巻)あり, 6/8拍子がIII, Vに, 2/4拍子がVI, VIIIにある。

3. テンポ変更: メトロノーム記号または速度標語によるテンポ変更の指示は以下のような配置でみられる。同一曲番では17でIII(初出), V-VIIIまでと9巻中5巻にみられる。次いで1のVI-IXに, 2のV-VI, VIII-IXに, 7のIV-V, VII, IXに, 10のVI-IXに9巻中4巻にみられる。3のV-VII, 4のVI-VII, IXに, 6のVI-VIII, 8のVII-IXに, 9のVI, VIII-IXに, 12のVI-VII, IXに, 13のV, VII-VIIIに, 14のVI-VII, IXに, 15のV-VI, IXに9巻中3巻にみられる。ほかに16のV-VIにもみられる。

巻別には, VIの1-4, 9-10, 12, 14-17(17曲中11曲), VIIの1, 3-4, 6-8, 10, 12-14, 17(11曲), Vの2, 3, 7, 11, 13, 15-17(8曲), VIIIの2-3, 6, 8-10,

13, 17 (8曲) みられる。

4. 奏法：スタッカート奏法は4にIII~V, VIII—IX 9巻中5巻と集中しているが, 10のIII, VI, IX, 14のIV—V, VIIにそれぞれ3曲ある。このほかには, 1のV, VIII, 5のIII, VIII, 12のVI, VIII, 13のVII, IX, 16のIII, IXにみられる。巻別には, VIIIの1, 4—5, 8—9, 11—12, IXの2~4, 6, 10, 13, 16と9巻中7巻にみられる。IIIでは4—5, 10, 15—16, IVの4, 14, Vの1, 14, VIの10, 13, VIIの13—14, IXの2—3にみられる。

連符(3連符, 5連符または6/8拍子の中の2連符)は7のV—VI, 11のVIII—IXに, 12のVI, IXにみられる。巻別には, Vの7, 9, 17, VIの3, 7, 12, IXの2, 11—12に9巻中3巻にみられる。ほかには, VIIIの8, 11にみられる。

同音連打は同一曲番に複数みられるのは, 3のIII, IX, 5のIII, VIIIである。巻別では, IXで3—4, 10, 13, 15, 17と17巻中6曲にみられる。IIIの4—5, VIIIの2, 5にある。手の交差は, 17にだけ9巻中2巻にみられるが, 2, 4, 12, 13を除いた13曲番にそれぞれ1曲みられる。IXは1, 3, 5—6, 8—11と17曲中8曲みられる。また, VIでは7(初出), 14, 17にある。

5. 3小節(または5小節)フレーズ(モチーフ): ハンガリー音楽の特徴のひとつでもある3小節フレーズで同一曲番に複数みられるのは, 5のI, IV, IX, 2のII, VI, IX, 3のI, IV, 6のII—III, 8のI(5小節フレーズもみられる), VIII, 11のIII(5小節フレーズ 初出), VIII, 15のI, Vにみられる。

巻別にみると, Iでは3(初出), 5, 8, 15の9巻中4巻にみられるのが最多で, IIの2, 6, 9, VIIIの4, 8, 11の9巻中3巻にみられる。

6. 調号: 同一曲番でみると8, 11のI, V—VI, 12のIV, VI, 15のI, VIIがいずれもF#である。6のIII, IVはF#C#G#, 17のIV, VIIIはF#C#である。

巻別にみると, Iの8(初出), 15はF#, IIIの7, 16がC#, IVは15, 17がF#C#, Vは3, 9がBb, 11, 14がF#である。VIでは8, 11—12がF#である。VIIでは3, 7がF#C#G#D#, VIIIでは8, 17がF#C#である。

7. 白鍵と黒鍵の使用: 上声部・下声部が白鍵・黒鍵を分担奏する曲についてみていく。同一曲番では, 一曲中分担奏が複数みられるのは1のVI—VIIである。巻別には, VIIの1, 3, 5, IIの12, 16が複数である。1部分に分担奏がみられるものも含めると, この他に6のIII, V, VIII, 8のIII, IV, VII, 10のIV—V, VIIIが9巻中3巻にみられ, 他に2のV—VI, 3のVII—VIII, 4のIV, VII, 15のIV—Vにみられる。

巻別には, VIIの1, 3~5, 8が最多で, 次いでIVの4, 8, 10, 15, Vの2, 6, 10, 15が17曲中4曲, VIIIの3, 6, 10に3曲みられる。ほかにIIの12, 16, IIIの6, 8, VIの1—2にみられる。

1曲すべてを白鍵と黒鍵と分担して奏する曲の配列は, 上声部/下声部の分担鍵が白鍵/黒鍵の曲の次の曲は黒鍵/白鍵の分担に, その次は白鍵/黒鍵というように上下声部の分担鍵が交互になっている。一か所だけ前後の曲が同じ鍵になっているが, あとは厳格に交互配列になっている。

8-1. 構成声部のうち保持音: 保持音による多声部の曲を同一曲番でみると, 4のIV—V, VII, 6, 8のV, VII, IX, 13のIV, VIII—IXがそれぞれ9巻中3巻にみられる。次いで5のIV, IX, 7のV, IX, 9のIV, VII, 12のVIII, IXがある。

8-2. 構成声部のうちユニゾン, 単旋律, オクターヴ: ここでは, 同時に奏する場合と時間的にずれる場合の双方のユニゾン, オクターヴ奏, 単旋律のもの対象とする。

1曲すべてがユニゾンの曲は, 巻別にはIの1~9, 13—14, IIの1~4まで, VIの13, VIIの2, 6, IXの1がある。単旋律がみられるのは, IVの

1 (初出) - 2, 17, Vの16-17, VIIの5, 11, 13-14, IXの3, 7である。単旋律はI, II, III, VIIIにはみられない。

同一曲番ではユニゾン、単旋律、オクターヴ奏が部分的に使用されているものも含めると、7のI, VI~IX (9巻中5巻), 9のI, III, V, VIII-IX (5巻), 14のI, IV-V, VII, IX (5巻), 1のI-II, IV, IX (4巻), 2のI-II, IV, VII (4巻), 3, 4のI-II, IV, IX (4巻), 5のI, VII, 6のI, V-VII (4巻), 8のI, VI, VII, 10のVII, IX, 11のVI-IX (4巻), 13のI, VI-VII, 15のI, VIII-IX, 16のV, VII-IX (4巻), 17のIV-V, IXにみられる。

巻別には、Iの1-9, 13-15 (17曲中12曲), IIの1-4 (4曲), IIIの9, IVの1-4, 14, 17 (6曲), Vの6, 9, 14-17 (6曲), VIの6-8, 11, 13 (5曲), VIIの2, 5-8, 10-11, 13-14, 16 (10曲), VIIIの7, 9, 11, 15-16 (5曲), IXの1, 3, 7, 9-17 (12曲)がみられる。

8-3. 三声体および四声体：同一曲番では、3のVI-VII, 4のV-VII, 5のIV, VI, IX, 8のVI-VII, IX, 9のIV, VII, 15のVII, IX, 13のIV, VII, 17のVIII-IXにみられる。巻別には、IXの2, 5-8, 14-16 (17曲中8曲), VIの1, 4-5, 8-9 (5曲), IVの5-6, 9, Vの3-4, 6-8, VIIの3-4, 6, 8-9, VIIIの13, 17, にみられる。

9. 書法：それぞれの書法ごとに、複数の曲がみられるものについてみていく。

平行進行の曲は、11ではI, IV, VI, VIIIと9巻中4曲にみられ、7のV, VII-VIII, 4のIII-IV, 16ではI, IIIにみられる。反進行の曲は、3のIV-V, VII, 1のVとVII, 4のIIIとV, 6のIV, IXである。鏡影進行の曲は同一曲番では、5のI, VIII-IX, 2のI, VIII, 7のV, VII, 9のV, IX, 12のI-IIにみられる。カノンは同一曲番

では、9のII, IV-VI, IXが9巻中5巻にみられ、6のII, IV, VI, 7のIV-V, VII, 13のII, IV-V, 16のIII, V, VIIには9巻中3巻にみられる。4のVIII, IX, 4のVIII-IX, VI, 11のII, VI, 12のIII, VIIがある。模倣は6のII, VI, 12のII, VIIにある。分散和音は、11のIII, V-VIに9巻中3巻にみられ、6のVIII, IX, 7のIII, IX, 17のIV-Vにある。

巻別にみると、平行進行がIの11, 16, IIIの4, 10, 16, IVの4-5, 10, VIIの1-3, 7 (17曲中4曲), VIIIの7, 11, 17にみられる。反進行はVの1-4, VIIの1, 3, 7, IXの5-6にみられる。鏡影進行はIの2 (初出), 12, Vの5, 7, 9, VIIの7-8, IXの5, 9にみられる。カノンはIIの6, 8-9, 11, 13-14 (6曲), IIIの1, 3, 5, 12, 16-17 (7曲), IVの6-7, 9, 13 (4曲), VIIの7, 9, 12, 16-17 (5曲), IXの4, 9にみられる。分散和音はIIIの7-8, 11, VIの11-12, IXの6-7にみられる。オスティナートはIIIの13, 14, IXの10-12にみられる。

前奏は6のIII, V, VIII, 10のIV, VI, IX, 12のVI, VI, IXに9巻中3巻みられる。他に8のV, VIIIに、11のVII, IXに、14のIII-IVにみられる。巻別には、VIIIの2, 5-6, 8-9, IXの3, 10-13にそれぞれ17曲中5曲にみられる。次いで、IVの10, 12, 14, 17に4曲, IIIの6 (初出) - 7, 14に、Vの1, 6, 8にそれぞれ3曲みられる。ほかにはVIの10, 12にみられる。

音部記号に関して、上声部がト音記号で下声部がヘ音記号とという通常の書法以外の曲は、IIの5に初めてみられるが、ここでは上下声部ともにト音記号となっている。上下声部がともにヘ音記号であるのは、IIIの9第2ピアノのパートに初めてあらわれるが、学習者用としてはIVの2に部分的にあらわれるのが最初である。一曲すべての上下声部がヘ音記号の曲はIIIの9 (第2ピアノ) とVの2にある。また、上声部がヘ音記号で下声部

がト音記号となっているのはVIIの15にみられる。

一曲を通して上下声部ともにト音記号が同一曲番で複数みられるものは、3のVI~IX, 5のII(初出), IVである。巻別には、IIの5(初出), 15, Vの12, 16, VIIの3, 8, IXの3, 6である。

上下両声部が部分的にト音記号となっているものも含めた同一曲番で複数みられるのは、2のVI~VII, IX, 3のVI~IX, 5のIV, VI, IX, 3の12, 13のV, VII~IX, 14のVI~IX, 17のV~VI, VIII~IXはそれぞれ17曲中4曲にみられる。次いで4のIV, VII, IX, 6のV~VI, IX, 7のIV, VII, IX, 8のVII~IX, 9のVI, VIII~IX, 10のIV, VIII~IX, 15のII, VII, IX, 16のV, VIII~IXでは17曲中3曲みられる。巻別では、IXの2~10と12~17が最多で17曲中15曲にみられる。次いでVIIIの1, 3, 8~10, 12~14, 16~17で17曲中10曲, VIIの2~4, 7~8, 12~15で17曲中9曲, VIの2~3, 5~6, 9, 14, IVの2, 4~5, 7, 10~11で6曲, Vの6, 12~13, 16~17で5曲みられ, IIの5(初出), 15でみられる。

上下声部ともにヘ音記号の曲は、12のVI~IXが最多で9巻中4巻にみられ, 1のVII~IX, 2のIV(初出)~VI, 9のIII, VI, IXでは3巻みられる。4のIV, IX, 5, 8, 11, 17のVIII~IX, 14のVII~VIII, 15のIV, IX, 16のVII, IX, にみられる。

巻別ではIXの2, 4~5, 7~13, 15~17が最多で17曲中13曲にみられる。次いでVIIIの1, 3, 5, 8, 11~12, 14, 17が17曲中8曲に, IVの2, 4, 6, 15, VIIの1, 12, 14, 16にはそれぞれ4曲, VIの2, 9, 12にみられる。

10. 基音(主音): 同一曲で複数の基音を数える曲2曲を除き, 支配的な基音と判断できる音を基音として数えた。上声部と下声部で基音を異にする曲は上下別に数えた。

巻の1と17とが基音を同じくしているのは, I, V, VIII, IXである。17と次巻の1が同じ基音のものはない。

基音すべてを数えて同一曲番内で基音が複数みられるのは, 1のI, III, VI, VIIIがcである。2のVII~IXはg, I~II, IVはc, V~VIIはdである。3ではI, V~VIはd, II, VIIIがgである。4ではII, VI, IXがa, III, VIIがd, I, VIIIがcである。5ではI~II, IV~Vがa, II, Vがd, IV, VIがcである。6ではI, VIII~IXがg, V~VIがc, II, VIIがd, IVとVIがaである。7ではIII~IV, VIIIがg, I, VIがe, V, IXがc, II, VIIがdである。8ではI, V, IXがd, II, VIIIがh, I, VIIがe, I, VIがgである。9ではII~III, IXがd, III, V, VIIIがg, I, VIがcである。10ではIII~IV, Vがe, I, VI, IXがd, II, VIIがc, IV, VIIIがgである。11ではI, IV, VIがg, II, V, IXがe音である。12ではII~III, VI, IXがeである。13ではII, Vがd, VI~VIIがg, I, IXがcである。14ではI~II, IV~Vがd, III, VIIIがgである。15ではI~II, VIIがd, III, IX, V, VIIIがcである。16ではII~IV, VI, VIII, IXがa, I, VIIがcである。17ではII, VII, IXがe, I, VIIIがcである。

巻別には, Iでは1, 2, 4, 9, 13, 16~17がc, 3, 8, 10, 12, 14~15がd, 7~8がe, 6, 8, 11がg, 2, 5がaである。IIでは2, 10がc, 1, 5, 6, 7, 9, 13~16(17曲中9曲)がd, 11~12, 17がe, 4~5, 16がaである。IIIでは1, 3, 15がc, 4, 9, 13, 17がd, 6, 10, 12がe, 5, 11がf, 7, 9, 14がg, 2, 8, 13, 16がaである。IVでは2, 5がc, 3, 9, 10, 13がe, 4, 8がf, 1, 7, 10~11がg, 5~6, 9, 16がaである。Vでは6~7, 12がc, 2~3, 5, 8がd, 10~11, 16がe, 1, 4, 9, 15, 17がgである。VIでは1, 5~6, 9, 14がc, 2~3, 10がd, 8, 11, 13がg, 6, 15~16がa, 12, 17がhである。VIIでは10, 16がc, 2, 4, 6~7がd, 3, 8がe, 5, 13がg, 1, 11がa, 1, 3, 12がhで

ある。Ⅷでは1, 4, 11, 17がc, 2-3, 6-7, 9-10, 14-15がg, 5, 16がa, 8, 13がhである。Ⅸでは3, 7, 13, 15がc, 8-10がd, 1, 11-12, 17がe, 2, 6がg, 4, 14, 16がaである。

Ⅱの5-8, 13-17は, 各曲の基音がd-d-d-hの順になっている。Ⅰの1-3, 16-Ⅱの1, Vの6-8はc-c-dと基音が並んでいる。Ⅰの2-Ⅳの2までの基音はc-a-c-a-cの順になっている。

c-aと基音が続くのはⅠの4-5, Ⅲの1-2, Ⅲの15-16, Ⅳの5-6, Ⅵの14-15, Ⅶの10-11, Ⅷの4-5, Ⅸの3-4である。また, Ⅸの13-16まではc-a-c-aとなっている。基音がg-cと続くのはⅢの14-15, Ⅳの1-2, Vの17-Ⅵの1, Ⅵの8-9, Ⅵの13-14, Ⅷの10-11, Ⅸの2-3, Ⅸの6-7である。基音がd-cと続くのはⅠの3-4, Ⅱの12-13, Ⅱの9-10, Ⅶの15-16である。基音がg-aと続くのはⅢの7-8, Ⅷの15-16である。

11. 様式<sup>2)</sup>: 様式Ⅰは, 5でⅠ, Ⅲ-Ⅴ, Ⅶ-Ⅷと9巻中6巻にみられるのが最多で, 次いで3のⅠ-Ⅱ, 3のⅠ-Ⅱ, Ⅳ-Ⅴ, Ⅷの9巻中5巻にみられる。1のⅠ-Ⅱ, Ⅳ-Ⅴ, 4のⅠ-Ⅲ, Ⅷ, 8のⅠ-Ⅳ, 9のⅡ, Ⅳ-Ⅴ, Ⅸにはそれぞれ9巻中4巻にみられる。その他2のⅠ-Ⅱ, V, 6のⅠ, Ⅳ, Ⅶ, 12のⅢ-Ⅳ, Ⅷ, 13のⅠ, Ⅳ, Ⅵ, 14のⅣ, Ⅵ, Ⅷ, 15のⅢ, V, Ⅷ, 16のⅣ, Ⅶ-Ⅷにそれぞれ9巻中3巻にみられる。ほかに12のⅢ-Ⅳ, 13, 14のⅣ, Ⅵ, 16のⅦ-Ⅷがある。

様式Ⅱは, 8でⅡ, Ⅳ-Ⅶ, Ⅸと9巻中6巻にみられる。次いで2のⅢ, Ⅵ-Ⅷ, 7のⅠ, V-Ⅵ, Ⅸ, 10のⅡ-Ⅳ, Ⅸ, 17のⅠ, Ⅳ, Ⅵ, Ⅷにそれぞれ9巻中4巻にみられる。1のⅡ, Ⅵ-Ⅶ, 6のⅡ, Ⅵ, Ⅷ, 12のⅠ-Ⅱ, Ⅶ, 13のⅡ, Ⅳ, Ⅷ, 14のⅠ, Ⅲ, Ⅷではそれぞれ9巻中3巻にみられる。ほかに1のⅠ-Ⅱ, 3, 12のⅢ-Ⅳ, 16

のⅦ-Ⅷがある。

様式Ⅲは, 9巻中4巻にみられるのが最多で4のV-Ⅶ, Ⅸ, 7のⅡ-Ⅲ, Ⅵ, Ⅸ, 11のⅢ, V, Ⅵ, Ⅸ, 12のⅣ-Ⅶ, 14のⅠ, Ⅳ-Ⅵ, 17のⅡ-Ⅲ, Ⅵ-Ⅶにみられる。次いで2のV-Ⅵ, Ⅷ, 3, 6のⅥ-Ⅶ, Ⅸ, 16のⅡ-Ⅲ, Vで9巻中3巻にみられる。そのほかには5のⅦ-Ⅷ, 9のⅥ-Ⅶ, 13のⅢ, V, 15のⅡ, Ⅶがみられる。

様式Ⅳは, 10でⅠ, Ⅳ-Ⅶ, Ⅸと9巻中6巻に, 次いで14のⅡ-Ⅲ, Ⅶ, Ⅸで9巻中4巻に, 13のⅠ, Ⅶ, Ⅸ, 15のⅠ, Ⅵ, Ⅸで9巻中3巻にみられる。このほかに2のⅣ, Ⅸ, 6のⅢ, V, 7のⅣ, Ⅶ, 9のⅢ, Ⅷ, 11のⅦ-Ⅷがみられる。

12. 楽曲形式<sup>3)</sup>: テラス構造の曲は2のⅡ, Ⅳ, Ⅶ, Ⅸ, 10のⅣ-Ⅴ, Ⅶ, Ⅸで9巻中4巻に, 6のⅠ-Ⅱ, V, 15のⅣ-Ⅴ, Ⅸでは3巻にみられる。他には1のⅣ-Ⅴ, 3のⅡ, Ⅸ, 4のV, Ⅷ, 5のⅣ, Ⅶ, 9のⅢ, Ⅷ, 13のⅣ, Ⅶ, 14のⅦ, Ⅸにみられる。

建築的民謡構造の曲は9のⅢ, V-Ⅵ, 11のⅡ-Ⅲ, Ⅷ, 12のⅠ, Ⅳ, Ⅶ, 17のⅠ, Ⅳ, Ⅷに9巻中4巻にみられ, 他に13のⅠ, Ⅵにみられる。

節構成の曲は10のⅠ, Ⅳ-Ⅵに9巻中4巻にみられ, 8のⅢ, Ⅷ, 14のⅡ(初出), Ⅶにみられる。

楽節構造の曲は4のⅠ-Ⅲが9巻中3巻にみられ, 1のⅡ, Ⅸ, 14のⅠ, Ⅳがみられる。

2部または3部形式の曲は, 7のⅡ, Ⅳ-Ⅷが9巻中6巻にあり, 2のⅢ, Ⅳ, V, Ⅸ, 4のⅣ-Ⅶ, 6のⅢ, Ⅵ-Ⅷ, 13のⅡ-Ⅲ, V, Ⅷが9巻中4巻にみられる。1のⅥ-Ⅶ, Ⅸ, 3のⅢ, V-Ⅵ, 8のⅡ, Ⅳ-Ⅴ, 15のⅡ-Ⅲ, Ⅶ, 16のⅠ(初出), Ⅲ, V, 17のⅡ-Ⅲ, Vが9巻中3巻にみられる。他に9のⅣ, Ⅶ, 12のⅡとV, 14のⅢ-Ⅳがみられる。

橋構成の曲は6のⅥ, Ⅸ, 12のⅢ(初出)-Ⅳにみられる。

各巻別にみると、テラス構造ではIIの2（初出）—3, 6, IVの1—2, 5, 10, 13, 15（17曲中6曲）、Vの1, 4, 6, 10, 15（5曲）、VIIの2, 5, 10, 13—14（5曲）、VIIIの4, 9, IXの2—3, 10, 14—15（5曲）みられる。建築的民謡構造の曲はIの5（初出）、12—13, 15, 17, VIの2, 9, 12—13（4曲）、VIIIの8, 11, 17, IIの11, 14, IIIの9, 11にある。節構成の曲はVの1, 6, 10, VIの10, 15, VIIIの8, 11にある。楽節構成の曲はIの4, 6, 11, 14, IIの1, 4, IIIの4—5にみられる。2部または3部形式の曲は、Vの2—4, 7—8, 12—13, 16—17（9曲）、IIIの2—3, 6, 13—17（8曲）、IVの2, 4, 7—9, 11, 14（7曲）、IIの7—8, 12—13, 15, 17（6曲）、VIIの1, 4, 6, 7, 9, 15（6曲）、VIの1, 3, 4, 6—7（5曲）、VIIIの5—7, 13（4曲）、IXの1—2にみられる。ロンド形式はIXの5, 10, 14, 16—17（5曲）みられる。橋形式はIXの3, 5—7にみられる。

13. 情緒的要素<sup>4)</sup>：同一曲番で多いものをみると、要素1 aは9のI—III, VIIIに9巻中4巻に、また2のI, IV, VIにみられる。ほかに6のI, IV, 7のI, V, 8のI, VIII, 10のIV—Vにみられる。要素2は7のV, VIIIに、要素4は15のIV, VI, 16のII, VI, 要素5は8のII, IVに、要素6は9のVI, VII, 12のV—VIにみられる。要素7は8のVII, IX, 12のIII—IVにある。要素8は15のI, III, VII, IX, 17のIV, VIIにみられる。要素9は4, 5のV, IXにみられる。

巻別では、Iでは要素1 aの曲が1—9, 11, 16が17曲中11曲ある。IIでは、要素1 aが9, 13, 要素4に7, 16にみられる。IIIでは要素4が7, 17, 要素8が15—16, IVでは要素1 a 2, 6, 10, 要素1 bが5, 9, 要素4が7, 15にみられる。Vでは要素9が4—5, 16, 要素1 aが7, 10, 要素5以外の各要素の曲がみられる。VIでは要素4が3, 6, 12, 15—16, 要素5の曲

が2, 13—14, 要素2が5, 7, 要素6が9, 12, 要素7以降の曲はない。VIIでは要素7の曲が5, 7—8, 要素8が15, 17にみられる。VIIIでは要素2が3, 7, 12, 要素3が2, 15—16, 要素1 aが8, 9, 要素7が13, 17にみられる。IXでは要素2が4, 11, 17, 要素9が3—5にみられる。要素7が6, 8, 要素8が2, 15にみられる。

14. 題名<sup>5)</sup>：同一曲番にある同じ題名が複数あるものをみていく。同一曲番でみてみると、奏法に関する題名をもつ曲は4, 5のIII, VIII, 9のII, IV, 13のI, VI, 15のIII, Vである。リズムに関する題名は16のII, VII, IX, 7のI, V, 13のVII, IX, 14のVIII, IX, 17のVII, IXである。調性を表す題名は1のVI—VII, 3のIII, IV, 10のIV—V, 17のII, VIIIである。音程を表す題名は16のIV, VI, 二重音や和音を表す題名は1のV, VIIIである。声部の数または進行方向に関する題名は、1のI—II, IX, 2のI—II, VIII, 4のI—II, VIが9巻中3巻にみられ、次いで3のI—II, 5のI, IX, 8のV—VI, 11のI, IV, 12のI, VIIがみられる。民族音楽の様式・民族性を示す題名は、2, 17のIV, IX, 6のIII, V, 7のIV, VII, 9のIII, VIII, 13のVII, IX, 15のVI, IX, である。芸術音楽の様式・種類を示す題名は、2のIII, IV, 6, 12のII, VI, 14のII, Vである。内容説明的な題名は、14のI, IV, VII, 3のVI—VII, 12のIII, IV, 13のIV—Vである。描画的な題名は、6のVII—IX, 7のII, IV, VII, 11のIII, VIII, IX, 9のVI—VIIである。

巻別にみてみると、奏法に関する題名はIの8, 10, 13, IIIの4—5, IVの1, 6, 9, VIの13—14, VIIIの4—5にみられる。リズムに関する題名はIの7, 9, IIの10, 16, VIIの11, 13, 16—17, VIIIの7, 14, IXの12—17にみられる。調性を表す題名はIIの15, 17, IIIの3, 14, IVの3—4, 8, 10, VIの1, 6—7, VIIの1—2である。音程を表す題名はIVの5—6, 10, VIIIの10, 12—13に、二重音や和音を表す題名はVの1—2, 5, 17,

VIIIの1～3, 15にみられる。声部の数または進行方向に関する題名は、Iの1～6, 11—12, 15, 17, IIの1～4, IIIの7, 10, IVの11, 15, VIの4, 8にみられる。民族音楽の様式・民族性を示す題名は、IIIの6, 9, IVの2, 7, 17, VIの5, 15, VIIの4, 10—11, 13, VIIIの8—9, IXの2, 12—17である。芸術音楽の様式・種類を示す題名は、IIの5—6, 8, 11—14, VIの2, 6—7, 12, IXの4, 9にみられる。人名をつけた題名はVの11—12である。内容説明的な題名はIVの12—14, Vの9, 11, VIの3, 11, VIIの3, 5, 8, 14にみられる。描画的な題名はIIIの11, 13, Vの4, 16, VIの9—10, 12, VIIの6—7, 9, IXの3, 6, 11である。

## II. 考察

9巻編成の場合の意図を推察できる項目について数的な面から考察する。

調性については、VIII(17が全音階)とIX(1は調性が特定できない)を除いては、各巻の1と17との調性は冒頭の曲が西洋音階で始まる巻はその巻の17も西洋音階であり、1が教会旋法(教会旋法的なものも含む)の巻は17も教会旋法である。1と17の調は、Iが長短調, IIが教会旋法, IIIが長短調, IVが長短調, Vが教会旋法, VIが長短調となっている。IからIIIまでとIVからVIまでは、それぞれの3巻が長短調—教会旋法—長短調という並びでひとまとまりをなしている。これらのことから、調性については9巻編成への配慮があったと考えられよう。

拍子は全部で13種使用されているが、IVの1と17, VIIIの1と17, VIIの17とVIIIの1, VIIIの17とIXの1が同じ拍子になっている。9巻中4巻以上同一の拍子が集中しているものは、1(4/4), 2(3/4), 3(2/4), 4(2/4), 5(4/4), 6(3/4, 2/4), 7(2/4), 8(4/4), 9(4/4, 3/4, 2/4), 10(2/4), 12(4/4), 14(4/4), 15(4/4), 16(4/4), 17(3/4)

である。巻別では、4/4拍子がI, IIに集中し、3/4拍子はVI, VII, VIIIに、2/2拍子がV, VI, IXに多い。拍子についても計画性をみることができる。

奏法では、4に集中的にみられ、該当するものがない曲番が7曲、1個該当する曲番が4曲あり、7までと11以降という配置になっている。巻別にはI, II, VIIには該当するものがないのも計画性のあらわれともみられよう。

3(5)小節フレーズは10, 12—14, 16—17にはなく、1, 4, 7, 9に1個ずつの配置になっている。巻別にはIに4曲, II, VIII, IXに各3曲と9巻の初めの2巻と終わりの2巻に集中した対称的な配置になっている。

調号では、VI, III, V, IV, VIIと曲集の初めの2巻と終わりの2巻は比較的少ない配置になっているといえる。

保持音は曲番ごとには1個～3個と分散しているが、巻別にはIXの9曲, VIIIの6曲が多い。1, 2, 11, 15—17, I—III, VIに保持音の使用がないことを意図的と考えることもできよう。ユニゾン・オクターヴ・単旋律では、IとIXがともに17曲中12曲にある。1のVとVIIIは和音、1のVIとVIIは長短調である。8のVとVIは声体、10のIVとVは5音音階、11と13のVIIとIXはブルガリアリズムである。Iの8—9, IIの9—10は同音反復とシンコペーションが組になっている。16のII—III, 17のIV, VII, IXは舞曲である。三声・四声では6, 8で9巻中4巻, 4, 5, 9, 13で3巻にみられ、IXでは17曲中10曲, VIIで6曲, V, VIで5曲という配置である。基音ではgが1, 2, 6, 7, 13に連続使用がみられ、VIIIでは基音gが2—3, 6—7, 9—10, 14—15と2曲ずつ連続した配置である。cはIに、dはIIに、gはVIII, Vに曲集中し、Vはdとg, cとeが同数である。cは7以前に多く、eは10以降に多い配置がみられる。

様式では、様式Iから様式IVまでがそれぞれ網の目のようにつながった連続配置が多く、あたか



も互いに触手を広げあっているような配置である。

楽曲形式ではテラス構造と二部・三部形式が10以前に多く、民建築的民謡構造が11以降に多い。節構成は10に集中している。

情緒的要素では9で要素1 aが4曲(うち3曲連続)、7で要素4が3曲連続、15に要素8が9曲中4曲みられる。巻別ではIでは要素1 aが11曲(うち9曲連続)、IXで要素9が3曲連続している。

題名では、内容説明的な題名が12に3曲連続し、リズムに関する題名が17で4曲、7で3曲みられる。巻別では、Iで声部数・進行方向に関する題名が10曲(うち6曲連続、2曲連続2組)、IIで4曲連続している。また、IIではこのほかに芸術音楽の様式・種類を示す題名が6曲(うち4曲連続、2曲連続)ある。IVでは内容説明的な題名が3曲連続し、ほかに調性をあらわす題名が4曲みられる。Vでは和音・重音をあらわす題名が4曲、IXではリズムに関する題名が6曲連続、民族音楽性をあらわす題名が6曲連続している。題名について、9巻編成の意図を強くみることができるのは、対になった配置である。以下に対の配置をいくつか取り出してみる。IとIIの1～4はともに声部数に関する題名になっている。5～6と11～12のI—IIはともに声部数に関する題名と芸術音楽の様式・種類をあらわす題名とセットの配置がみられる。IX、IVの1、6と11のVIII—IXはともに描画的題名が連続している。2と17のIV、IXはともに民族音楽性をあらわす題名が、6と12のII、VIは芸術音楽の様式・種類をあらわす題名が置かれている。なかでも、この曲集の冒頭の巻であるIのユニゾンの6曲連続と最後の巻であるIXのリズム・民族音楽性をもつ6曲連続の対をなす配置に9巻編成の意図をみることができる最たるものである。

以上、いくつかの項目の中に配置の視点から9巻編成の意図をみてきたが、最後に6巻編成の場

合と9巻編成の場合の数量についてふれておく。

6巻編成および9巻編成の場合の各巻の曲数および必要頁数(注および序文を含む)は次のようになる。

6巻の場合は総曲数186曲、総頁数258頁である。

	1巻	2巻	3巻	4巻	5巻	6巻
曲数	36	30	30	25	18	14
付録	4	14	13	2		
頁数	27	38	48	50	41	54

9巻の場合は総曲数186曲、総頁数267頁である。

	1巻	2巻	3巻	4巻	5巻	6巻
曲数	17	17	17	17	17	17
付録	1	3	7	9	11	1
頁数	14	17	23	26	30	24
	7巻	8巻	9巻			
	17	17	17			
	1					
	34	36	63			

6巻編成に比して9巻編成は、各巻の頁数の差が大きいの。1巻、2巻は20頁たらずという薄い綴りとなり、9巻は1巻の4.5倍という頁数になる。

おわりに

バルトークがこの曲集に153曲という数を選んだのは、意識的に聖書のヨハネ伝第21章第11節のキリストの弟子の網にかかった魚の数と同数にしたのではないかという柴田説に興味をもった。全153曲を17曲ずつ9巻に別れるのが本来の姿であるというのである。バルトークはたしかに、若いころにキリスト教の不条理性をシュティフィ・ゲイエルへの書簡で書いている。また、22歳の時に無神論者がわたしの中に生まれたともいっている。しかし、最後までユニテリアンの教会に属しており、終生宗教的精神の持ち主であった。彼は、採譜する歌の理解のために10ヶ国語を習得したが、この民謡研究に必要な言語を学ぶために各国の聖書を収集している。さらに、歌に神への祈

願を込めている。また、彼の次男ペーテル（現行版マイクロコスモス第1巻と第2巻を献呈されている）は、キリストの弟子ペトロと同じ名前でもある。一方、数学は若い時から彼を魅了していたし、日頃から机上にひまわりや松ぼっくりを置いていた。そして、自分の音楽作品の構造を計算から構築した。長男ペラによると、バルトークは作曲するにあたっては非常に慎重で、どんな小品でもあらゆる角度から構想を練り、必要な全知識を注入し、それらを科学的に処理したという。

本稿の分析からみても、数にこだわる性格や習性癖からみても、マイクロコスモス編集に際しての計算は9巻にあって、柴田説のいうように、9巻編成はいくつかの項目に関しての曲の配置上からはバルトークの意図を反映させた編集をもくろんだとみてとることができたといえよう。しかし、テキストとしては、体裁上からも出版するには不適當であったので実現はしなかった。

#### 参考文献

BÉLA BARTÓK: MIKROKOSMOS, Vol. I~VI,  
BOOSEY & HAWKES

- 1) 柴田南雄：音楽にしひがし，青土社 p229-231 (1994)

柴田南雄：ムジカノーヴァ ミクロコスモスをめぐって—38, p117-118 1974. 7月号

- 2) ヤーノシュ・プロイエル／渡辺護訳：〈マイクロコスモス〉について，バルトーク大全集 第4巻 1971 p5 様式の分類による
- 3) フランク・オスカー／照澤惟佐子訳：バルトークマイクロコスモスの世界，全音楽譜出版社 1993 p117-137 楽曲形式の分類を参考にして分類した
- 4) 前掲著3) p211 情緒的要素の分類型による
1. 明瞭なイントネーションをもつ旋律的な曲
  - a) 民族的な性格の曲 b) 古い芸術的な影響がみられる曲
  2. 激しく確固としてリズムカルな曲
  3. 機械的，練習曲風なもの
  4. 叙情的，穏やかな，田園的，懐古的な曲
  5. 悲哀を帯びた悲歌風のもの
  6. ロマン派的な音調の性格曲
  7. 謎めいた神秘的または印象派的
  8. 明るい陽気な舞曲のリズム
  9. おどけたグロテスクまたは遊戯的な曲
- 5) 前掲著3) p211-212の分類を参考にして以下のよう分類した
1. 奏法に関する曲
  2. リズムに関する曲
  3. 調性に関する曲
  4. 音程に関する曲
  5. 和音・重音に関する曲
  6. 声部数・進行に関する曲
  7. 民族性をあらわす曲
  8. 芸術音楽の様式・類する曲
  9. 人名をつけた曲
  10. 説明的な曲
  11. 描画的な曲